

研究課題名	外来通院中の乳がん患者における抑うつリスクと IPOS スコアとの関連： 単施設後ろ向き探索的研究
試料・情報の利用目的・ 利用方法（他機関へ提 供する場合その方法）	乳がんの治療中は、こころのつらさ（抑うつ）が生じやすいことが分かっています。 本研究では、日常診療で実施している短い抑うつ質問票（PHQ-2）と、からだ・こころ・生活の困りごとを包括的に評価する IPOS（Integrated Palliative care Outcome Scale）の結果を見比べ、以下を明らかにします。 ● IPOS の「こころ」や「家族」の項目が、PHQ-2 で抑うつの可能性が高い（陽性）こととの程度関係するか ● 当院で運用している「IPOS 合計 10 点以上で多職種の優先支援につなぐ」という基準が、妥当かどうか この取り組みでは、患者さんご自身が感じている症状や困りごとを計測する患者さん報告アウトカム（PRO）を重視します。PRO の一つである IPOS を上手に活用することで、こころのつらさを早めに見つけ、必要な支援につなげることを目指しています。結果は、患者さん支援の質向上や治療の継続を支えるために役立てられます。
研究対象者	2025 年 5 月から 2025 年 8 月までの期間に、ベルランド総合病院乳腺外科外来に通院し、PHQ-2 と IPOS を自身で記載することができた 20 歳以上の方
利用又は提供する試 料・情報の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：生年月、性別、同居者の有無、就労の有無、初発・再発、術前・術後、subtype、転移の有無、IPOS(総得点、身体症状得点、患者の不安・抑うつ・穏やかさ、家族の不安、家族の理解、評価者、カンファレンス後再評価時の得点、患者の気がかりの内容)、繰り返し高スコアの有無、PHQ-2（総得点、カンファレンス後再評価時の得点）、多職種カンファレンスでの推奨内容、がん相談・医療ソーシャルワーカー介入の有無
研究予定期間	機関の長の実施許可日～ 2027 年 3 月
試料・情報の取得方法	通常診療の過程で得られます
試料・情報を利用する者 の範囲	この研究はベルランド総合病院のみで行います
試料・情報の管理について 責任を有する者の氏名又 は機関の名称	ベルランド総合病院 院長 片岡 亨
研究に協力したくない場合	研究への試料・情報の利用についてご同意いただけない場合は下記お問い合わせ先までお申し出ください。不同意の場合でも診療に不利益になることはございません。
利益相反について	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問合せ先	ベルランド総合病院 緩和ケア科 氏名：山崎圭一 メールアドレス：k_yamasaki@seichokai.or.jp 〒599-8247 堺市中区東山 500-3 TEL：072-234-2001（代）